



建築

キャリア

新人♥
新採用
1年目

若手👉
技師
2～10年目程度
(20～30代前半)

中堅👉
主任
10～15年目程度
(30代中盤～)

サブリーダー👉
主査級
(主査建築専門員 等)
15～20年目程度
(30代後半～)

グループリーダー👉
主任主査級
(首席建築専門員 等)
20～25年目程度
(40代中盤～)

管理監督者👉
担当課長～
25年目以降
(40代後半～)

主な職名：建築専門員、講師 等

主な配置先：県土整備部建築住宅課・都市計画課、広域振興局土木部（各土木センター）、総務部管財課、産業技術短期大学校 等

県職員としての土台づくり。
知識経験をしっかり吸収。

様々な分野を経験。実務
の中核として活躍。

視野を広げながら担当業務
を推進。後輩もフォロー。

幅広い視野で業務を推進。
チームの要として活躍。

チームを引っ張り、県
の政策・施策を立案。

豊富な知識・経験で
組織をマネジメント。

必要な知識・能力・役割

- ・建築・住宅・営繕行政に関する基礎知識及び各分野における基本的な対応力
(建築指導：法令に係る審査・指導能力)
(住宅：各種施策に係る企画・調整能力)
(営繕：公共施設に係る設計・監理能力)
- ・関係法令、各種基準、施策に関する基礎知識
- ・行政職員としての幅広い知識とバランス感覚
- ・資格取得にも必要となる各分野の知識及び基本的な技術力

- ・建築・住宅・営繕行政に関する専門知識、技術力及び実践的な対応力
- ・実務の中心的役割を担うための業務遂行能力
- ・建築主事の職務に必要な法令等に関する高度の専門知識及び審査・指導能力
- ・災害時等（建築物等）における対応力

- ・建築・住宅・営繕行政に関する施策の企画立案及び総合調整能力
- ・部下職員の育成及びグループのマネジメント能力

- ・管理監督職として所属職員や事務事業をマネジメントする能力
- ・これまでに培ってきた専門分野の知識・経験等を踏まえた高度な能力（説明・交渉・調整力、判断力、指導力、分析力）の発揮
- ・人材育成能力

👉 若手職員の配置
基礎的な技術・知識を習得するため、複数の所属を経験。一級建築士や建設基準適合判定資格の取得等を目指す。

職員育成（主な研修）

県土整備部管理・予算経理事務担当者研修会

県土整備部新採用職員研修

新採用職員研修

一級建築士資格取得支援研修

建築基準適合判定資格取得支援研修

建築技術等専門研修（構造審査）

工事検査研修

被災建築物応急危険度判定士講習会

被災宅地危険度判定士講習会

【外部】派遣研修（国土交通省、一般財団法人全国建設研修センター 等）

👉 育成方針：職場を離れて受講する研修（Off-JT）に加え、日常の仕事を通じた上司・先輩からの指導（OJT）や自主的な学習・研鑽（自己啓発）を組み合わせる育成

注1：各職位の目安（○年目）は大卒程度を想定したものです。 注2：研修のうち太い枠線のあるもの（着色されているもの）は必修研修であることを表しています。